



テーマ

海外セミナー 1967年に第1回海外セミナー（USA）開催



1967年8月31日掲載

ハワイ 布哇報知新聞 より抜粋

米国の社会生活と大学 見学で理解を増進

追手門学院の天野団長語る

「西の学習院」といわれた名門 借行社校の後身追手門学院大学（大阪府茨木市）の第1回海外セミナー一行29名は、学長天野利武団長引率のもとに渡米、各地を訪問後昨30日正午日航機でロサンゼルスから到着した。

天野団長は辻村龍彦（経済学部2年）と川上静子（英外語学部2年）さんらを伴い、日航の早坂浄広報部長の案内であいさつに来社した。天野団長一行は米国の社会や大学を直接見学して、国際理解の増進に大いに役立ったことを喜んでいと語った。＜中略＞一行は本31日朝午前9時半から1時間ばかりハワイ大学を訪れ、オアフ島を一周、明9月1日午後1時半発の日航機で帰国する。

天野団長の話

「スタンフォード大学には旧知のヒルガード教授があり、いろいろ案内を受け、ヒッピー問題などについても、米国の社会制度の生んだ特異なものとして、同情的な意見を聞いた。」

米国の社会生活と大学 見学で理解を増進 追手門学院の天野団長語る

写真左から辻村龍彦、天野利武団長と川上静子の皆さん

増進に大いに役立ったことを喜んでいと語った。天野団長は、八年前後米して各大学を視察した時と比べていずれも発展しているのにびっくりした。特にパタゴニアの加州大学の大船、各地の州立大学の設備など、著しく伸びているのを注目した。スタンフォード大学には旧知のヒルガード教授があり、いろいろ案内を受け、ヒッピー問題などについても、米国の社会制度の生んだ特異なものとして、同情的な意見を聞いた。

現在サンフランシスコは、ヒッピー問題が、文明が高度に成長した結果生れたものと思われる。米国の学生間でも意見はまちまちで、サンフランシスコでは同様の現象が、南部では否定的態度である。フェニックスのアリゾナ大学などは、公園と花が、道端に美しい散らばっている。

うとする傾向が生じているが、精神的な面が減少して、調査したら、一四〇家族は観察を語った天野団長は、大学の設備について大きく、なればなるほどその拡充が、必要とされ資金集りが問題となつて、今、九時半から一時間ばかりハワイ大学を訪れ、オアフ島を一周、明九月一日午後一時半発の日航機で帰国する。

感しやう。

アゾナでは日本のごが知られて、いへん。着物は着るか、ホコはいるかと、観察の事を多く聞かされた。天野団長は、個性をいかして上座に着く、なしてはいる。シート、スカイも着ていける。

民宿の引き受け

ここで、アメリカ女性に男性をひきつける魅力が、自ら観察して大いに参考となつた。学生交換の場合、時差を日航機で帰国する。

第1回海外セミナー 布哇報知（ハワイ）新聞記事（寄贈 辻村龍彦氏）

第3回海外セミナー ハーバード大学の校内にある最初の寄付者で清教徒派牧師 John Harvard 像の前にて天野学長。（寄贈 竹川滉氏）

＜第1回海外セミナー主な渡航先＞(8/16-9/4 20日間)

東京発→アンカレッジ経由サンフランシスコ→ラスベガス→メキシコ→サンディエゴ→ロサンゼルス→ハワイ→東京着

学院志研究室は2012（平成24年）に設立され、初代の三崎一明先生（2012-13年）以来、植藤正志先生（2014年）、梅村修先生（2015年）が室長をおつとめになり、この2016年4月に着任した私で4代目になります。研究室の位置づけも今年度より、一貫連携教育研究所と並んで一貫連携教育部のもとに置かれることで落ち着きました。

この9月には、大学に置かれているさまざまな研究所の運営全体を見直す過程で、新たに研究棟に研究室が開設されることになりました。このように、少しずつですが運営の体制が整いつつあります。



（研究室）

2012年に制定された「学院志研究室規程」は、研究室の事業を具体的に、（1）資料の収集、整理及び保存、（2）学院志の調査・研究及びその成果の発表、（3）展示会、講演会および公開講座の開催、（4）学院志の編纂、（5）自校教育の推進、と定めています。現状の研究室では（3）以下にまで手を広げることは困難で、（1）を中心に、学内外のお問い合わせに応じて（2）のお手伝いをするという作業を地道に続けています。

追手門学院の歴史をあとづける資料が整理され、適切な保存措置を受け、関係者のみならず地域のみなさまや研究者の利用に供されるようになるには、なお相当の時間と労力が見込まれますが、お手持ちの資料のご提供、ご寄贈など、ひきつづきみなさまのお力添えをお願いする次第です。

〔活動日誌〕

- 2016年4月1日 「学院志研究室ニューズレター」第2号発行
- 2016年4月29日 天野利武先生墓参会（斉藤副室長・田村）参加
- 2016年6月11・12日 創設者高島鞆之助先生没後百年記念生誕地訪問（斉藤副室長）参加
- 2016年5月～8月 将軍山会館地下倉庫資料調査（小学校関連資料、8・16mmフィルム約130本含むAV資料、学院関係者文献 等 約3500点）

〔受贈報告〕（学外）

- 2016年5月 今倉大氏（追手門学院大手前中・高等学校 元教員）
- 2016年6月 片山友彦氏（追手門学院大手前中・高等学校 第19期生、追手門学院大学 第6期生）
- 2016年7月 深江賢氏（追手門学院小学部 第61期生）
- 2016年7月 西川喜朗氏（追手門学院大学名誉教授）
- 2016年8月 吉田浩幸氏（追手門学院大学 第6期生・元職員）

資料の寄贈・提供のお願い

学院志研究室では、追手門学院大学および学院に関する資料を、広く収集しています。創立者及び学院関係者の諸資料、広報誌などの学内刊行物、教職員・学生・生徒の出版物、写真、記念品など、学院の歴史に関する資料がございましたら、下記までお気軽にご連絡ください。

